

English Garden 第78話

"The World is still deceived with ornament."

William Shakespeare

「世間はいつも見かけに欺かれている」 シェイクスピア『ヴェニスの商人』

シェイクスピアの『ヴェニスの商人(The Merchant of Venice)』は何といっても 裁判の場面で有名ですが、この劇のもう一つの見せ場は、ポーシャの婿選びにあります。

ヴェニスの商人アントーニオは親友のバッサーニオに、莫大な遺産を持つポーシャに求婚するための金を貸してほしいと頼まれますが、あいにく全財産を貿易のための船荷に投資していて手持ちがありません。そこで日頃軽蔑しているユダヤ人の高利貸のシャイロックから、自分の体の肉1ポンドをかたにして金を借りることになりました。バッサーニオはその金で高価な贈り物を買ってポーシャの邸に行きます。ポーシャの夫になるためには、彼女の面前で三つの小箱の中から正しいものを選ぶというテストに合格しなければなりません。表題の言葉はその箱を前にしたバッサーニオの独白です。(木下順二訳による)



ポーシャの父は臨終の際、ポーシャの夫には金・銀・鉛の三つの箱の中から正しい箱を選んだ者に決めること、と遺言しました。それぞれの箱には銘が刻まれています。金の箱には"Who chooseth me shall gain what many men desire." (我を選ぶもの、衆人の欲するものを得べし)、銀の箱には"Who chooseth me shall get as much as he deserves." (我を選ぶもの、おのれにふさわしいものを得ん)、鉛の箱には"Who chooseth me must give and hazard all he hath." (我を選ぶもの、持てるすべてをなげうつべし)と刻まれていました。ポーシャは自分の意志で夫を選ぶことも断ることもできないと嘆きながらも、遺言を守って押しかける求婚者に対します。しかし、それらの言葉の意味を考えに考えて金の箱を選んだモロッコの王子も、銀の箱を選んだアラゴンの王子も、幸運を引き当てることができませんでした。それに対して、ポーシャは実に辛辣なコメントをしています。

Thus hath the candle singed the moth.
O, these deliberate fools!"
これでまた一匹、蛾がろうそくに焼かれちゃった。
ああ、なんて考え深いおばかさんたち！

次にいよいよバッサーニオが登場します。ふとした機会に出会ったときから、二人は密かに思いを寄せあっており、ポーシャはバッサーニオが選択を誤るのを恐れて、運命の時を引き延ばそうといろいろおしゃべりを始めます。でも、バッサーニオは拷問台にいるような苦しみは早く逃れたいと箱の選択を求めます。彼が選んでいるあいだ、衆士たちはこんな歌をうたっています。

Tell me where is fancy bred,
浮気心が育つはどこよ、
Or in the heart or in the head?
胸の底でか頭の中か？
How begot, how nourished?
何として生まれた、何食うて肥えた？
Reply, reply,
さあさ、お答え。
It is engender'd in the eyes,
生まれおたちは瞳の底よ、
With gazing fed; and fancy dies
見とれて肥えて、そのままやがて、
In the cradle where it lies.
死んでしまうが浮気心よ。

都都逸(どどいつ)のような木下氏の軽妙な訳に感心させられます。

三つの銘を読みくらべたバッサーニオは、「うわべというものはとかく本性と別なものなのだ。世間はいつも見かけに欺かれている」とつぶやきながら、「外見はみすばらしいが人をおびやかすような飾り気のなさか 雄弁よりも私を動かす」と鉛の箱を選びます。中には、"You that choose not by the view,/ Chance as fair and choose as true!(汝外観によって選ばざるものよ、この幸福、この選択を常にわがものとせよ！)"の言葉と共に、ポーシャの肖像画が入っていました。めでたく求婚する資格が得られたのです。

箱選びによって結婚の相手をきめるといふ筋書きは、イタリアの短編集『ジェスタ・ロマーラム』にも類似のものがあって、『ヴェニスの商人』が書かれたと推定される1590年代までにはイギリスでも英訳されて広く読まれていたということです。

ところで、結婚の相手を選ぶ話は各地の神話や伝説の中にも数多く存在します。シンデレラの王子もそうですし、日本の『竹取物語』でもかぐや姫の求婚者は数々の難題に挑戦させられます。面白いことに、精神分析で有名な心理学者のフロイトも『ヴェニスの商人』の小箱のモチーフを取り上げて論じています。フロイトの解釈によると、「人間というのは所詮運命から逃れられないものであるが、それに抵抗しようとするはかない願望が選択という行為に表わされている」のだそうです。(鈴木晶著『フロイトからユングへ』NHKライブラリー、1999年刊)

この文書の著作権は株式会社富士通アドバンストソリューションズが保有します。許可なく複製、転用、販売などの二次利用することは禁じます。雑誌書籍、広告など出版物への掲載にあたっては、お手数ですが、事前にご連絡願います。